

フラッシュユ



JA青森

あおもり桜マラソン JA青森も協賛（4/16）

今年で2回目の「2023あおもり桜マラソン」が青森市で開かれ、フル、ハーフ、10^{km}の3種目に3518人が参加した。

JA青森では、大会を盛り上げるとともに、管内のリンゴをPRするため、JA共済の地域貢献活動事業を利用して、県産リンゴとリンゴジュースを参加者に無料で配布した。

JAつがるにしきた



アスパラの品質向上に向け春先管理を学ぶ（4/14）

JAつがるにしきたつがる白神やさい・果実部会は、立茎栽培8年目となる鱒ヶ沢町のほ場で、アスパラガス現地栽培研修会を開いた。生産者や農薬メーカー、JA職員38人が参加し、春先の栽培管理について学んだ。

JAの営農指導員が、前年のざんさの片づけを行い、刈り取り跡は土寄せや堆肥マルチ等を行い埋めるよう指導した。



JAごしよつがる

苗安定供給へ トマト接ぎ木慎重に（4/5）
JAごしよつがるは、五所川原市の太刀打育苗施設で大玉トマト「りんか」の苗510本の接ぎ木作業を行った。同施設は、生産者の労力軽減を目的に、メロン、スイカなど野菜苗の栽培管理を行っている。苗の管理の負担が大きく、自身で育苗する生産者が減少傾向にあるため、その支援策として取り組み、生産意欲維持への効果も期待する。

JAつがる弘前



慣れた作業・場所ほど気を付けて

農作業安全祈願祭（4/6）

高杉地区りんご共同防除組合連絡協議会は、JAつがる弘前の高杉冷蔵庫敷地内で、本格化する農作業を前に安全祈願祭を行った。

祈願祭には同協議会構成員約40人が参列し、農作業中の安全を祈願して、弘前市富栄の七面山感應寺の住職がスピードブレイヤーを1台ずつ祈禱した。

JA相馬村



こどもサポート支援自販機（4/17）

JA相馬村特産品センター『林檎の森』の自販機のほか2台が“こどもサポート支援自販機”へと生まれ変わった。JA女性部が（一社）みらいねっと弘前とみちのくコカ・コーラボトルリング(株)との協働事業で導入した。売り上げの一部を子ども食堂や子どもの居場所作りのため寄付。自販機はJA湯口支所の入口、同JASS内にも設置。



JA津軽みらい

かまくらりんご掘り起こし（4/20）

黒石市のJA津軽みらい直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成するかまくらりんごの会は、同市沖揚平地区で雪の中に埋め冬越させたりんごを掘り起こす作業を行った。会員10人が参加し、雪の中からりんご53箱（20kg/箱）を掘り起こした。

「かまくらりんご」は今年で16年目となり、即売会ではすぐに完売する人気商品。



JAゆうき青森

にんにく部会 現地栽培講習会（4/25）

JAゆうき青森野菜振興会にんにく部会は、天間林地区のほ場にて現地栽培講習会を開催し、生産者46人が参加した。

講習会では、今後の管理作業について生育状況を確認しながら葉面散布剤を利用することや、病害虫防除について説明をした。



JA十和田おいらせ

タマネギ産地化へ

作業負担の軽減と所得向上を（4/10）

JA十和田おいらせ野菜振興会上北支部は、水田転作作物としてタマネギの試験栽培を進めており、東北町にて、自動操舵の畝たて機と移植機の実演会を行い、長久保耕治町長や生産農家、農機具メーカー、JA職員ら関係者40人が参加した。

定植から収穫、搬入までほぼすべての作業の機械化が可能で、作業負担の軽減と生産拡大が期待される。



JAおいらせ

病害虫の予防防除の徹底を呼び掛け

ニンニク講習会（4/14、20）

おいらせ農協やさい推進委員会ニンニク部会は、六戸地区（14日）と三沢地区（20日）でニンニク栽培講習会を開催した。六戸地区では約50名、三沢地区では約30名が参加した。

今年のニンニクの生育は天候に恵まれ平年より早く、それに合わせて病害虫の防除も遅れることなく進めるようポイントを説明した。



JA八戸

新人職員の職場体験（4/15）

JA八戸は、五戸町の同JA倉石育苗センターで新人職員の職場体験を行い、職員2人が育苗箱をハウス内に並べる作業を手伝った。

先輩職員から「苗の新芽は繊細なので丁寧に扱うように」とアドバイスがあり、箱の持ち方や傾きなどに気をつけながら苗運び等の作業を行った。

JA青森県青協 総会で新委員長 佐々木さん選任

青森県農協青年部協議会（JA青森県青協）は、4月7日、青森市で2023年度通常総会を開いた。役員およびJA青年部長ら約35人が出席した。

22年度の活動報告や23年度の活動計画などについて承認し、役員改選の結果、JA十和田おいらせの佐々木祐輔さんを新たに委員長に選任した。23年度の活動計画では、生産基盤強化対策などの国内農業対策の確実な実施に向けた運動を展開していく。

佐々木新委員長は「これまでの勢いを止めることなく一層尽力したい」と述べた。

総会后、仮想現実（VR）を用いた農作業事故体験の研修が行われ、参加者は「リアルな体験ができた。今後の農作業で事故の無いように気を付けたい」と述べた。

副委員長は次の通り。

- ▽工藤繁樹（JAつがるにしきた青年部）
- ▽高村泰公（JA八戸青壮年部）



▲挨拶する佐々木新委員長(左)

第69回女性協通常総会

青森県JA女性組織協議会（県JA女性協）は4月20日、県農協会館で第69回通常総会を開いた。県内JA女性部員ら約90人が参加。2023年度の活動計画など全5議案が承認された。役員改選の結果、JAつがるにしきた女性部長の松橋久美子さんを新たに会長理事に選任した。

松橋新会長理事は「今年度は県JA女性協創立70周年という大きな節目の年でもあり、この大役を受けるにあたりプレッシャーを感じている。皆さんと何でも密に話し合い、協力と支援を仰ぎながら一枚板となり進んでいきたい」と抱負を述べた。

23年度はこれまでのJA女性部活動を振り返り、JA女性部のあり方について考えながら「食と農」を基軸とした活動の実践などに取り組む。

副会長理事は次の通り。

- ▽田澤真由美（JA相馬村女性部）
- ▽小川真利子（JA十和田おいらせ女性部）



▲新たに選任された役員

家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会

JA青森中央会は4月26日、青森市で「家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会」を開いた。

JA役員ら約70人が集まり、2023年度の家の光三誌・日本農業新聞の普及推進にかかる取組方針を共有した。

23年度を取組方針として、JA青森中央会から、家の光三誌・日本農業新聞の普及推進に向けた基本的な考え方や普及奨励・表彰基準を説明した。

一般社団法人家の光協会の木下春雄常務理事と株式会社日本農業新聞の廣田武敏代表取締役社長が情勢報告をした。

また、先進取組事例紹介では、JAみえなか（三重県）の岡田勇樹常務理事が「組合員～次世代との関係づくり～」と題し、自JAの取り組みを紹介しながら、組合員・地域住民との関係づくり、全職員による広報の実践活動を講演した。

岡田常務理事は、「地域農業を盛り上げるため、県域を越えて幅広く他のJAとつながれることは、JAの強みでもある。職員は、自JA以外の良いところを積極的に取り入れてみる必要がある」と訴えた。

行事（5/10～6/10）

5月

- 10日 県参協定例会、通常総会、JA参事経営問題研修会（ホテル青森）
- 10～11日 初級職員研修会1（県農協会館）
- 12日 内部監査初任者研修会、内部監査・リスク管理担当部課長・担当者会議（県農協会館）
- 12日 県JA女性協理事会（県農協会館）
- 17～18日 中堅職員研修会1（県農協会館）
- 18日 生活指導員通常総会、新旧合同役員会（県農協会館）

6月

- 1～2日 営農指導員スタートアップ研修会（アスパム）
- 2日 次世代リーダー育成研修会オリエンテーション（県農協会館）
- 7日 県参協定例会（県農協会館）
- 7～8日 管理者研修会1（県農協会館）
- 8日 消費税インボイス研修会（県農協会館）
- 8日 県JA協議会通常総会（アップルパレス青森）
- 9日 定例理事会（県農協会館）

令和5年度 青森県JA信用・共済事業 合同推進大会を開催

JAバンク青森は4月18日、青森市でJA共済連青森と合同で「令和5年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会」を開催した。

本大会は、信用・共済事業のさらなる実績拡大と相互連携強化を目的に、今回初めて信共合同で開催したもので、県内JA役員約100名が参加した。

開会にあたり、JAバンク青森運営協議会議長ならびに全共連青森県本部運営委員会会長の雪田徹JAグループ青森四連会長が「生産資材の価格高騰や豪雨災害など、取り巻く環境が厳しさを増す中、組合員・利用者へ支持され、事業基盤を維持していくには、総合事業者としてのJAの力を十分発揮する必要がある。信用・共済の両事業は、より一層連携を強化し、顧客の目的・ライフステージに沿った提案活動を実践していくことが重要。この大会を一つの契機として、信用・共済事業の一層の連携強化・実績拡大に繋がることに期待したい。」と挨拶。

続いて、農林中央金庫 河本紳常務執行役員、全国共済農業協同組合連合会 村山美彦代表理事専務から激励の言葉があった。

また、信用・共済の各事業の今年度の施策・方策について説明があり、信用事業では、JAバンク青森中期戦略2年目の施策として、引き続き「農業」「くらし」「地域」の各領域で、JAが一層の金融仲介機能を発揮していくことを目指し、被災組合員をはじめ県内農業者の再生産に必要な農業資金の供給に注力するほか、農林中金も各種施策の立案・サポートを実践していくことを確認した。

その後、JAつがるにしきた 工藤盛伯金融部長とJA八戸

柳町ルリ子共済部長により、各事業の県下目標達成に向けた決意表明が行われ、JAつがる弘前 太田俊逸常務理事の発声による「がんばろう三唱」で目標達成を祈願した。

最後に大場勉副議長・副会長が「各事業で掲げた施策・方策に真摯に取り組み、果敢にチャレンジしていくことが、組合員・利用者の期待に応え、青森県の農業の発展と地域貢献につながる。」と挨拶し閉会した。

大会では令和4年度の県域表彰も行われた。受賞JAと受賞店舗は次のとおり。

【優績JA表彰】

最優秀 JAつがる弘前
優秀賞 JAおいらせ
奨励賞 JAつがるにしきた

【優績店舗表彰】

最優秀賞 JA十和田おいらせ ももいし支店
優秀賞 JA津軽みらい 尾上支店
奨励賞 JAつがる弘前 目屋支店
敢闘賞 JAつがる弘前 弘前南支店
同 JAおいらせ 本店
同 JA八戸 田子支店
同 JAつがる弘前 弘前北支店
同 JA八戸 下長支店
同 JAごしょつがる 木造支店
同 JAつがる弘前 弘前東支店



▲県域表彰を受賞したJAならびに店舗の代表者

行事 (5/10~6/10)

農林中央金庫

5月

10日 JA信用事業における内部管理態勢向上研修(*)
11日 アンチ・マネー・ローンダリング研修(*)
12日 国庫金振込事務研修(*)
16~18日 貯金・為替初任者研修(*)
19日 不正不祥事未然防止対策研修(*)
24日 融資初任者研修(*)
24日 国庫金振込事務研修(*)
25~26日 信用事業新任管理者研修(*)
28日 FP技能検定試験(各会場)
29~30日 相続実務研修(*)

6月

2日 JA信用事業における反社会的勢力対応研修(*)
4日 銀行業務検定/コンプライアンス

6~7日 オフィサー認定試験(各会場)
農業融資実践力強化研修(第1クール)(*)
7~8日 信用事業新任管理者研修(*)
8日 青森県JA信用担当部課長会議(県農協会館)

(*)はウェブ会議

農協電算センター

5月

26~30日 窓口端末機操作研修(貸出金)・2回開催(県農協会館)

6月

6~8日 窓口端末機操作研修(貸出金)・2回開催(県農協会館)
9日 臨時取締役会(県農協会館)

営農指導員研修大会

JA全農あおもりは3月23日、青森市の浅虫温泉南部屋・海扇閣で「令和4年度営農指導員研修大会」を開いた。県内JAから営農指導員ら約40人が参加。営農指導員としての心構えや各JAの取組事例などを共有した。

「営農指導員として成長するためには」と題して、JA全中の高橋昭博氏が講演。「JAの営農指導員は生産者のホームドクターとして栽培技術に限らず、販売、購買の知識等さまざまなスキルを向上させ、生産者の要求に応じていかなければならない」と話し、他県の参考事例を紹介した。

また、取組事例発表では、品質向上を目的とした試験や新規就農者を呼び込む活動など、各JAの取組9事例が発表され、JA相馬村の齋藤大貴さんが最優秀賞を受賞した。「実践的な営農指導への挑戦！私のターニングポイント」と題した取組を紹介。実務経験は少なかったが、新規就農者に対する栽培管理や薬剤防除などの実践的な指導を経験し、自身の指導スキルが向上したとし、現場に出向くことの大切さを参加者に訴えた。

全農あおもりでは、引き続き研修会を通して、営農指導スキルの向上を支援していく。

最優秀賞以外の受賞者は次のとおり（かっこ内は所属）。

【優秀賞】 鳴海清志郎（JAつがる弘前）

【特別賞】 佐藤誉士（JA津軽みらい）



▲表彰を受ける齋藤さん

青森県りんご共防連・共済会総代会

青森県りんご共同防除連絡協議会・共済会は4月7日、青森市の県農協会館で第68回総代会を開き、令和5年度計画を承認した。近年、農薬散布

中の事故が多発していることを受け、昨年度に引き続き「スピードスプレー等傷害事故防止運動の展開」を最重点事項とし取り組むこととした。事故防止運動強化月間の設定や、県共防連安全講習会を実施し、安全対策の普及啓発運動を展開する。また、「農薬残留基準の遵守や交信錯乱剤の導入など安心安全対策の徹底」や「生産資材の系統利用とりんご系統共販の拡大」についても重点事項に位置づけた。

葛西範正会長は、令和4年産の病害虫発生状況について「各共防において、適期適正散布が実施されたことで、腐らん病やハダニ類の発生を最小限に食い止めることができた」と振り返った。また「小規模共防を中心に解散や離脱が増加しているため、地区連との連携の中で解決策を模索しながら共防組織の維持強化に取り組む」と述べた。

共防組合活動の発展に貢献した1団体、5個人に共防功労賞を贈呈した。受賞者は次の通り。かっこ内は地区連名

▽共防功労賞

【団体】 津軽みらい農協みなみ

【個人】 井上誠紀（森田町SS共防連）、宮崎富雄（ごしょつがる）、渡邊正二（津軽みらい農協黒石）、松田和雄（津軽みらい農協尾上）堀合利一（南部町名川）



▲表彰を受ける津軽みらい農協の渡邊さん㊦

2023あおもり桜マラソン

JA全農あおもりは16日、「2023あおもり桜マラソン」に協賛した。

フィニッシュゲートがある青い海公園（青森市）にブースを出展し、ミス・クリーンライスあおもり、ミスりんごがランナー約2000人を対象に青森県産品セットを配布した。

内容は、青森米「青天の霹靂」を使用したおにぎり、「ニッポンエール飛馬ふじグミ」、県産牛乳、全農あおもりアグリショップ青森店で使用可能な「500円クーポン券」の全4種類を詰め合せしたもの。

受け取ったランナーは「おにぎりをもらえて嬉しい」、「走った後に栄養補給できるのは助かる」などと話した。



▲ランナーに配布するミス・クリーンライスあおもり

青天の霹靂増量キャンペーン



詳細はこちら

青森いきいきやさいレディコンテスト

JA全農あおもり（運営委員会会長 雪田徹）は4月22日、青森市のホテル青森で、「青森いきいきやさいレディ」コンテストの最終審査を行い2人の青森いきいきやさいレディを決めた。

今回選ばれたレディは2023年6月1日から25年6月30日までの任期で県産やさい・花きのPRを行う。

レディに選ばれたのは、つがる市の算用子芽衣さん、青森市の花田瑤緒さんの2人。2人は認定書とトロフィー、賞金30万円の目録を受け取った。算用子さんは「管理栄養士としての経験を活かし、青森のやさい・花きの魅力をPRしたい」花田さんは「県産やさい・花きのPRを通し、青森を明

るく元気に健康にしていきたい」と、選ばれた喜びをかみしめていた。

青森いきいきやさいレディは県内外のキャンペーン・販売促進活動を実施し、県産やさい・花きを消費者に広くPRするとともに認知度向上を目的に募集したもの。

今回の審査では1次、2次の審査を通った県内に在住の7人が最終審査に臨んだ。



▲青森いきいきやさいレディに選ばれた、算用子さん⑤、花田さん⑥

行事（5/10～6/10）

- | | |
|-----------|--------------------------------|
| 5月 | |
| 10日 | 農産物検査員育成研修開講式
(県農協会館) |
| 11日 | 春掘りながいも販売対策会議
(上十三広域農業振興会) |
| 12日 | 令和5年産だいこん情報交換会
(上十三広域農業振興会) |
| 6月 | |
| 9日 | 運営委員会 (県農協会館) |
| 10日 | 令和5年度やさい・花き取扱会議 (県農協会館) |

毎月放送！ 「Fresh Vegetable」



今後の放送スケジュール 夕方5時56分から！

- ・ 5月19日 JA八戸「春掘りながいも」
- ・ 6月2日 JAゆうき青森「こかぶ」

令和5年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会の開催

JA共済連青森は4月18日、ホテル青森にてJAバンク青森と今回初めて合同で「令和5年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会」を開催した。

開会にあたり、運営委員会会長である雪田徹会長より、「生産資材の価格高騰や豪雨災害など、県内JAを取り巻く環境は、厳しい状況が続くことが見込まれます。そうした中、組合員・利用者に支持され、事業基盤を維持していくためには、総合事業体としてのJAの力を十分に発揮していくことが求められると考えております。信用事業・共済事業においては、若年層も含めて、顧客の目的・ライフステージに沿った提案活動を実施していくことが重要であり、そのためには、組合員・利用者の目線に立って、両事業が一層、連携を強化していくことが必要と考えております。本日の合同推進大会の開催を一つの契機として、信用・共済事業のさらなる連携強化・実績拡大に繋がっていくことを期待します」と挨拶があった。

また、信用・共済各事業の今年度の施策説明があり、共済事業では、JA共済3か年計画の中間年度であり、引続き新たな生活様式への対応として仕組み・サービスの一体的展開、組合員・利用者の利便性向上や契約者対応力の強化等に向けて、デジタル技術のさらなる活用により「寄り添う・届ける・繋がる」環境づくりを行うほか、生命保障を中心とした万全な総合保障の提供に取り組んでいくことを確認した。

大会では、令和4年度LA優績顕彰・新任LA優績顕彰が行われ、4名のLAが顕彰された。併せて、スマイルサポーター優績顕彰及びJA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰・JA自動



▲挨拶を述べる雪田運営委員会会長

車共済損害調査サービス優秀担当者表彰・JA共済優績組合表彰が行われた。

その後、各JAの代表者による令和5年度の決意表明が行われ、JAつがる弘前の太田俊逸常務の発声により「がんばろう三唱」が昌和された。

最後に運営委員会副会長である大場勉副会長より閉会の挨拶が行われ、本大会の幕を閉じた。



▲JAつがる弘前の太田常務の発声により「がんばろう三唱」が声高らかに唱和された

令和4年度LA優績顕彰

《ブロンズクラス受賞》

JA八戸 浅水 久美子

令和4年度新任LA優績顕彰

《LA個人実績 第1位》

JA十和田おいらせ 上明戸 志穂

《LA個人実績 第2位》

JA十和田おいらせ 中嶋 如美

《LA個人実績 第3位》

JAつがる弘前 外崎 幸

令和4年度スマイルサポーター優績顕彰

《個人実績 第1位》

JA八戸 梅津 明美

《個人実績 第2位》

JA八戸 櫻川 太一

《個人実績 第3位》

JAつがる弘前 吉川 佳菜

《個人実績 第4位》

JAおいらせ 吉田 万里子

《個人実績 第5位》

JA津軽みらい 相馬 英里子

令和4年度 J A 自動車共済

損害調査サービス優秀組合表彰

《最優秀組合》

J A 十和田おいらせ

《優秀組合》

J A つがるにしきた

令和4年度 J A 自動車共済

損害調査サービス優秀担当者表彰

《最優秀担当者》

J A つがるにしきた 船水 聖也

《優秀担当者表彰》

J A ぐしよつがる 外崎 貴敏

J A 十和田おいらせ 小比類巻 啓裕

J A ゆうき青森 村松 健人

J A ゆうき青森 柴田 良一



▲ブロンズクラス受賞の浅水久美子さん

交通安全ラッピングバス運行式の開催

J A 共済連青森は4月5日、青森市営バス東部営業所で「J A 共済ラッピングバスの運行式」を行った。交通事故未然防止活動の一環として、地域住民の交通安全思想の啓蒙を図ることを目的としている。

スローガンをカラフルなイラストで車体側面にラッピングしたバス2台を活用し、歩行者の歩きスマホや早めのライト点灯など、危険運転の根絶を訴え、来年3月まで交通事故防止を呼び掛ける。運行式において、J A 共済連青森沼田博文本部長は「地域の方々の交通安全に対する意識向上と交通事故の未然防止に貢献し、1件でも交通事故が少なくなることを願っています」と挨拶した。

その後、運行の無事を祈って青森県警察本部、青森市企業局交通部、青森県交通安全協会、農協関係者らが共にテープカットを行った。

交通安全をテーマに掲げたスローガンは「なにで来た？」乾杯前の合言葉「イヤホンが危険

を知らせる音を消す」「暗い道たすけてくれる反射材」「夕暮れのライトは迷わず早めから」の全4種類。



▲運行式のテープカットを行う関係者
左から、青森県交通安全協会 須田専務、J A 青森 田中常務、J A 共済連青森 沼田本部長、青森市企業局交通部 佐々木部長、青森県警察本部 太田交通企画課長

文化支援活動クリアファイル寄贈式の開催

J A 共済連青森は4月10日、青森市の県庁でJ A 共済連青森主催の書道・交通安全ポスターコンクールの令和4年度最優秀作品をプリントしたクリアファイルを県内各小・中・特別支援学校に寄贈した。

式では、J A 共済連青森の沼田博文本部長が、青森県教育庁学校教育課の嵯峨弘章課長にクリアファイルを手渡した。

沼田本部長は「一人でも多くの児童や生徒に文化支援活動として、小中学生の書写教育と交通安全思想を広め、より関心を持ってもらい、創造性を磨いてほしい」と述べ、嵯峨課長は「力強い書道の作品と、発想力豊かな子供らしいポスターが素晴らしい。クリアファイルにプリントされることで、受賞した子供たちも誇らしく思うはず」と感謝した。

この活動は、文化支援活動および交通事故未然防止活動の一環として、平成27年度から実施している。今年度は87,828枚を寄贈した。



▲寄贈したクリアファイルを持つ沼田本部長（左）と嵯峨課長（右）

Lablet's 操作研修会の開催

J A 共済連青森は4月14日（金）に県農協会館において、新任L A（ライフアドバイザー）を対象とした「Lablet's 操作研修会（新任L Aコース）」を開催した。

Lablet's を活用し、ペーパーレスおよびキャッシュレス契約締結手順を習得することで、L Aのお客様対応力の向上を目的に行われた。

研修内容は、午前は座学を中心にコンプライアンスやLablet's の概要や基本操作などを学習し、午後はコロンブスの各種機能と契約申込手続き等の操作実習などを行った。

参加者はこれからの共済推進を充実したものにするため熱心に研修会に臨んでいた。



▲講師の説明を受ける参加者

自転車交通安全教室の開催

J A 共済連青森は青森県警察本部と連携して、4月14日に藤崎町立藤崎中学校、18日に田子町立田子中学校、21日に五所川原市立五所川原第一中学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開いた。

この教室では、スタントマンが危険な自転車走行に伴う交通事故の実演により、事故の衝撃や恐ろしさを実感することで、ルールやマナー違反が交通事故を招く危険性があることを考え、自転車交通ルールの理解と実践を呼びかけている。

参加した生徒たちは、スタントマンによる交通



▲事故を再現するスタントマン（藤崎町立藤崎中学校）

事故場面の再現で、自転車運転中の事故やトラックの内輪差による巻き込み事故を目の当たりにして、事故の恐ろしさを実感していた。

実際に体験した生徒は「交通事故の再現を見て、交通ルールとマナーを守ることの大切さを知りました」と述べた。

7月20日に蓬田村立蓬田中学校で実施を予定している。



行事（5/10～6/10）

5月

- 12日 共済事業担当常勤理事会議（県農協会館）
- 15日 J-SMILE 研修会 / 「窓口の基本」編（県農協会館）
- 16日 共済担当管理者研修会（オンライン）
- 24日 共済代理店新任担当者研修会（オンライン）
- 24～25日 共済事務インストラクター養成研修会（県農協会館）
- 25日 共済担当部課長会議（ホテル青森）
- 26日 J A 共済きずなの青い森プロジェクト（平内町）
- 30～31日 J-SMILE 研修会 / 「自動車」編（県農協会館）
- 31日 書道・交通安全ポスターコンクール審査員会議・委嘱式（県農協会館）

6月

- 1日 共済代理店担当者研修会（オンライン）
- 3日 アンパンマン交通安全キャラバン（柏ふるさと交流センター）
- 5～6日 J-SMILE 研修会 / 「長期」編（県農協会館）
- 7～8日 共済事務処理担当者研修会（オンライン）
- 9日 運営委員会（県農協会館）

令和3年 市町村別農業産出額（推計）（青森）

農業産出額の **1位は弘前市**、**2位は十和田市**、**3位はつがる市**

図 農業産出額1位部門の分布（令和3年）

令和3年青森県の市町村別農業産出額1位部門の分布をみると、東青、中南地域は果実部門、西北地域は米部門、三八、下北地域は鶏部門、上北地域は野菜部門が多くなっています。

県内順位では、1位が果実部門の産出額が多い弘前市（東北1位、全国5位）、2位が豚部門の産出額が多い十和田市（東北6位、全国42位）、3位が野菜部門の産出額が多いつがる市（東北11位、全国76位）となっています。

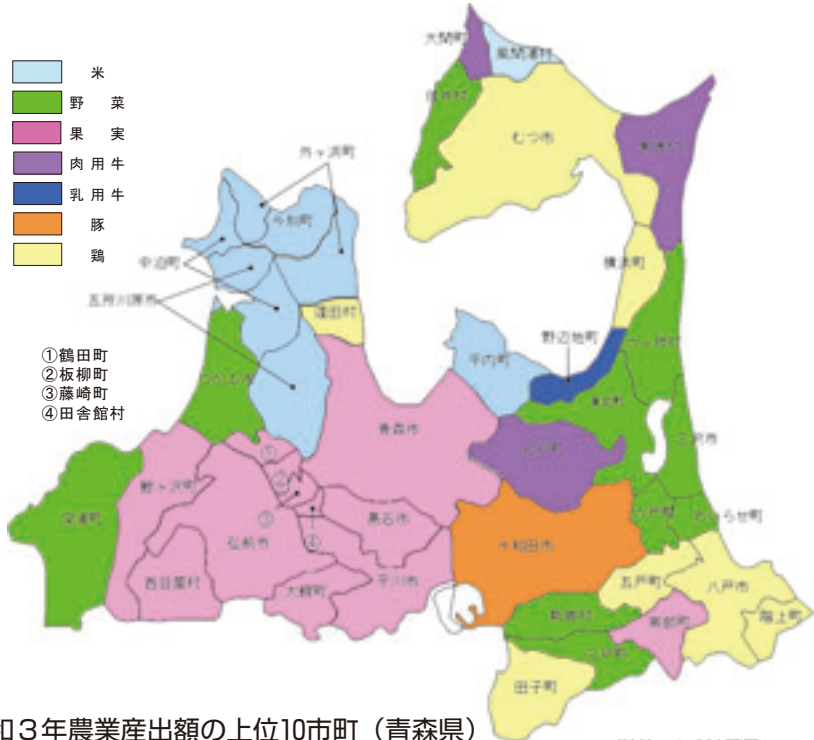


表 令和3年農業産出額の上位10市町（青森県）

単位：1,000万円

順位	市町村	令和3年 農業 産出額	耕種部門			畜産部門			
			米	野菜	果実	肉用牛	乳用牛	豚	鶏
1	弘前市	5,236	264	210	4,670	1	6	-	0
2	十和田市	2,548	287	845	8	384	26	905	60
3	つがる市	2,036	746	749	258	17	1	x	-
4	八戸市	1,815	86	196	95	54	7	332	961
5	三沢市	1,538	16	701	0	34	24	372	303
6	東北町	1,481	90	950	0	75	181	25	112
7	五戸町	1,331	73	440	106	62	4	-	595
8	平川市	1,290	170	137	933	10	-	x	5
9	横浜町	1,216	12	32	0	41	39	x	999
10	南部町	1,050	56	189	547	12	5	x	198

※表中の「-」は事実のないもの、「x」は個人又はその他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

市町村別農業産出額（推計）データベース

東北農政局のホームページでは、県別・市町村別、主要な品目別の農業産出額及び全国順位等を検索いただけます。

<https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/deta>

検索



実践 農業者支援

人・農地プランから地域計画へ

1. 農地をめぐる状況

- (1) 高齢化・人口減少が本格化する中で、農業者の減少や耕作放棄地の拡大がさらに加速化し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念されます。
- (2) 生産の効率化やスマート農業の展開等を通じた農業の成長産業化に向け、地域において、農地が利用されやすくなるよう、目指すべき将来の具体的な利用の姿等を描き、分散錯園の状況を解消して、農地の集約化等を進めるとともに、人の確保・育成を図る措置を講ずることが必要となります。

2. 人・農地プラン

地域の話合いに基づき、今後の地域農業の中心となる経営体（中心経営体）や将来の農業の在り方などを明確化する取組みです。

3. 人・農地プランの実質化

- (1) アンケートの実施
【農業者の年齢と後継者の有無等】
- (2) 現況把握
【(1)を地図化、5年～10年後に後継者のいない農地を見える化】
- (3) 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針を作成
【(1)(2)を基に、地域の話合いで5年～10年後の農地利用を担う中心経営体に関する方針を原則として集落ごとに作成】

4. 地域計画の策定（人・農地プランの法定化※）

※地域計画策定推進緊急対策事業（令和5年度予算概算決定額：799百万円）



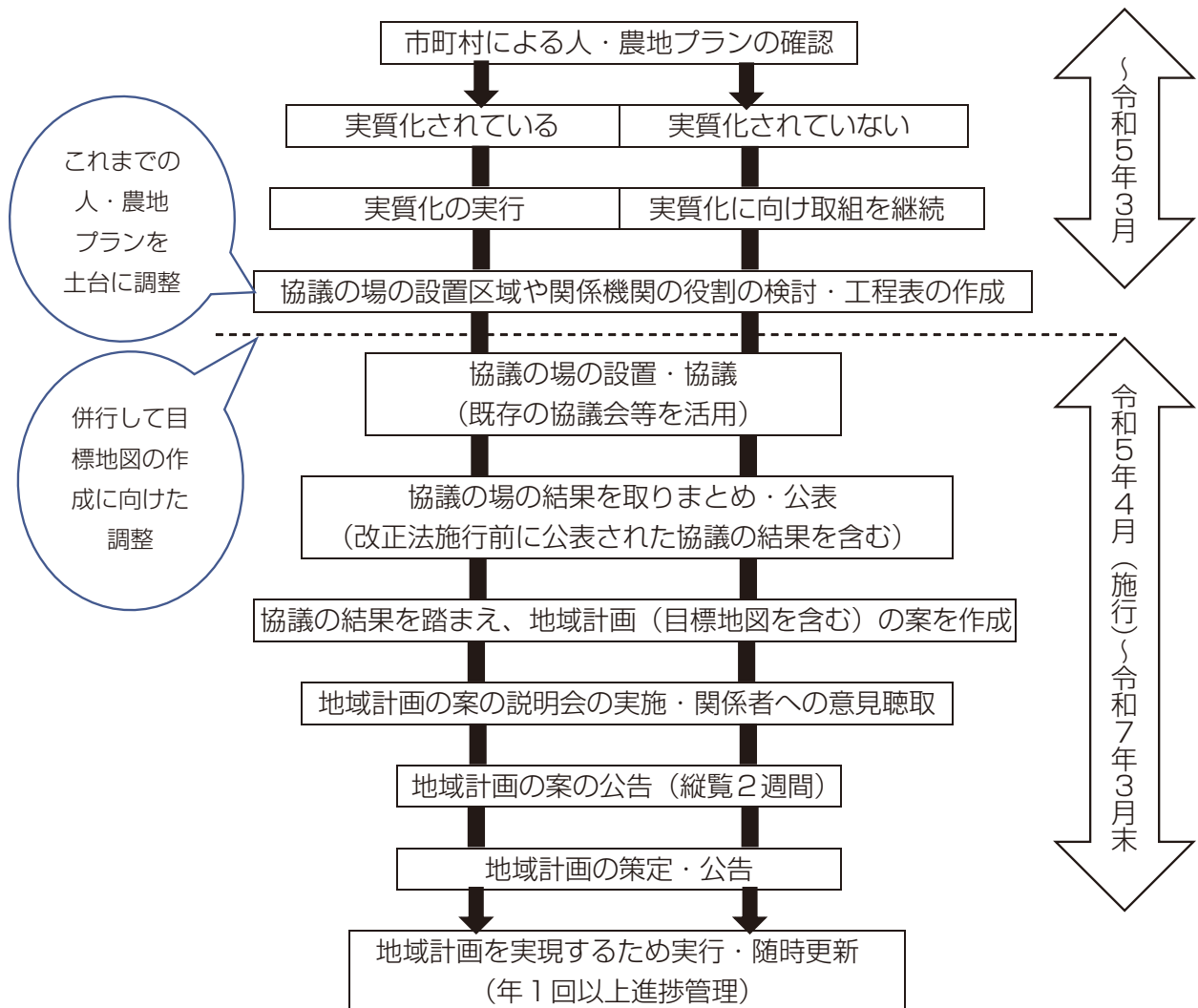
これまで、地域での話合いにより、人・農地プランを作成・実行してきましたが、今後、高齢化や人口減少の本格化により農業者の減少や耕作放棄地が拡大し、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地が利用されやすくなるよう、農地の集約等に向けた取組みを加速化することが喫緊の課題です。

このため、①人・農地プランを法定化し、地域での話合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画を定め、②それを実現すべく、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めるため、農業経営基盤強化促進法等の一部改正法が令和4年5月20日に成立しました。

- (1) 市町村は、地域における農業の将来の在り方等について、協議の結果を踏まえ、遊休農地や所有者不明農地を含めて農地の効率的かつ総合的な利用を図るため、「地域計画」(人・農地プラン)を策定する。

- (2) 地域計画は、施行日（令和5年4月1日）から2年以内（令和7年3月末まで）に策定する。
- (3) 令和5年度予算において、市町村による地域計画策定を支援する予算を要求する。

5. 地域計画の策定・実行までの流れ



6. 最後に

J Aグループがこれまですすめてきた地域農業振興対策の要として「地域農業振興計画」が重要であることを強調したうえで、新たな「地域計画」にどのようにJ Aが関わり、取り込んでいくか検討する必要がある。

(中央会 農業対策部)



経営の窓口

利用強制の禁止をあらためて考える

1. はじめに

近年、JAの行う事業運営に関して独占禁止法（以降独禁法と略）に違反する行為に該当すると指摘されるケースが発生している。社会情勢・経済環境の変化により独禁法の厳格な運用が求められるはじめ、平成27年の農協法改正では組合員への「利用強制の禁止」が条文として明記されることとなった。

今回は、あらためて「利用強制の禁止」について、独禁法と農協法の両面からみていくこととする。

2. 独禁法からみた利用強制の禁止

JAが組合員に対して、①農産物の販売や肥料・農薬の購入を強制したり、②資金融資の際に資材購入を条件とするなど、不公正な取引方法を用いる場合は、独禁法に違反するとして禁止されている（法第22条）。また、令和4年には総合的な監督指針が改正され、農林水産省・公正取引委員会による「独占禁止法違反行為の監督」について内容が追加され指導が強化されている。

○私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律

第22条 この法律の規定は、次の各号に掲げる要件を備え、かつ、法律の規定に基づいて設立された組合（組合の連合会を含む。）の行為には、これを適用しない。ただし、不公正な取引方法を用いる場合又は一定の取引分野における競争を実質的に制限することにより不当に対価を引き上げることとなる場合は、この限りでない。

○総合的な監督指針

Ⅱ-3-2-2 主な着眼点

(5) 事業の利用強制の排除及び独占禁止法の遵守

①例えば、

ア 組合員に対し、農協からの融資に際して農産物の農協への出荷を条件とすること

イ 組合員が農協から農業機械の購入資金を借り入れるに当たり当該機械の農協からの購入を条件とすること

ウ 組合員に対して農協以外に出荷することを制限し、農協を利用しないことを理由として共同利用施設の利用を制限することなど、法第10条の2の規定に反して組合員に事業利用を強制する行為、独占禁止法に定める「不公正な取引方法」に当たる行為、「一定の取引分野における競争を実質的に制限する」行為等、独占禁止法に違反する行為又は独占禁止法に違反するおそれのある行為が行われていないか。

3. 農協法からみた利用強制の禁止

平成27年に改正された農協法では、JA事業を利用するかどうかは組合員の選択に委ねられるべきであるという観点から、JAが組合員に事業利用を強制してはならないことが第10条の2に明記された。また、専属利用契約（組合員が当該組合の施設を専ら利用すべき旨の契約）に関する規定が廃止された。

これは、一連の農協改革の中で「農産物の有利販売など、農業者にメリットのある事業運営を行うことにより、農業者から選ばれる農協となる」ことを求められているためである。

○農業協同組合法

第10条の2 組合は、前条の事業を行うに当たっては、組合員に対しその利用を強制してはならない。

○総合的な監督指針

Ⅱ-3 事業実施体制

(略) なお、平成27年改正法において、組合がその事業を行うに当たっては組合員に対しその利用を強制してはならないという規定が追加されたところであり（法第10条の2）、組合員が組合の事業を利用するか否かは、各組合員の自主的な選択によるものであることを徹底する必要がある。

4. さいごに

JAグループではこれまでも独禁法遵守の取組みを行ってきたが、第29回JA全国大会（3年10月29日開催）では、農業協同組合法の順守、独占禁止法に違反する行為や違反するおそれのある行為を行わないことなどを決議している。そうした独禁法をめぐる情勢等については、3月開催の経営管理研修会資料に掲載しており、その中では公正取引委員会の動きやJA事業運営にかかるチェックリスト、生産部会の運営改善の方策等さまざまな情報を提供しているので参考にしていきたい。

農協法等の改正趣旨は「自由な経済活動を行うことにより、農業者の所得向上に全力投球できるようにする」ことであり、JA組織における主役はあくまで農業者であることを忘れてはならない。このことから、やはり農業者とJA役職員の徹底した話し合い・対話が大切であり、本会としては今後も、JAが独禁法に抵触することなく農業者の所得向上のため事業活動を継続するための支援をしていく。

(中央会 経営対策部)

組織農政通信

食料・農業・農村基本法の見直し等にかかる JAグループの政策提案（素案）

今回は、食料・農業・農村基本法（以下、基本法という。）の見直し等にかかるJAグループの政策提案に向けた取組内容や政策提案（素案）のポイントについて紹介する。

【政府・与党の動きとJAグループの取組み】

政府・与党は、5月～6月にかけて、基本法の見直しや令和6年度予算に関するとりまとめを進めている。一方、JAグループでは、全国各JAでの組織討議の意見を踏まえ、5月に政策提案を決定し、全国大会の開催等を通じて、政府・与党への働きかけを行うこととしている。

【政策提案（素案）のポイント】

1. 基本法の見直し

基本法の見直しにかかる主な政策提案（素案）のポイントは次のとおりである。

- (1) 平時を含む食料安全保障の強化を明確に位置付けるとともに関連施策の強化・再構築を図ること
現行の基本法では、不測時の食料安全保障は規定されているが、変化する世界情勢下では、農畜産物を好きな時に好きなだけ輸入できる時代ではなくなる等、基本法制定時から大きく変化している。
そのため、平時を含む食料安全保障の強化について、基本法の目的として明確に位置付けるとともに、そのことを評価する仕組みづくりや政府全体で対応する体制を整備すること。
- (2) 輸入依存度の高い穀物や米粉の増産、国産への切り替えを図ること
基本法制定以降、輸入は増大する一方で、生産基盤の弱体化が顕著になっている。世界の人口増加や自然災害が多発する中、このまま、輸入農畜産物に依存し続けることは、我が国の食料安定供給リスクの増加につながる。
そのため、改めて国内生産の増大を中心に取組むことを基本法において強調すること。
また、輸入依存が大きい農産物（小麦・大豆・飼料作物等）および輸入代替が期待できる米粉等の農産物の増産のほか、国産への切り替えや安定供給に向けた措置を講ずることを基本法に明記すること。
さらに、主食である米は、現行の備蓄水準を堅持するとともに、麦・大豆等穀物の食料備蓄を強化すること。
- (3) 再生産に配慮した適正な価格の実現と国民理解の醸成・行動変容に向けた政策の拡充を図ること
食料安全保障上、消費者の役割は大きい。現行の基本法では「消費生活の向上」のみとなっている。
そのため、国産農産物を積極的に選ぶことによる食料自給率の向上に向けた消費者の努力について、基本法に明記すること。
また、国民に対し、情報提供や教育の振興を通じて、適正な価格形成に向けた理解醸成や行動変容を促すこと。
さらに、農業等の第一次産業が果たす役割について、学校教育等の中で、体系的に学習し、体験する施策を講ずること。

2. 食料・農業・農村基本政策の確立（令和6年度予算対策）

食料・農業・農村基本政策の確立（令和6年度予算対策）にかかる主な政策提案（素案）のポイントは次のとおりである。

食料・農業・農村基本政策の確立（令和6年度予算対策）にかかる主な政策提案（素案）のポイント

- (1) 食料安全保障をはじめとする農業関係予算の確保
 - ① 食料安全保障の強化と食料自給率・自給力の向上に必要な基本政策の確立とその実現に向けた農業関係予算の確保
 - ② 生産資材の安定供給体制の確立および生産資材高騰対策への措置
 - ③ 輸入依存穀物の増産・米粉等利活用の強力な推進
- (2) 水田・畑作農業対策
 - ① 水田・畑作経営の安定や需要のある畑作物等の生産拡大に向け、飼料用米等を含めた作付転換にかかる必要な予算の恒久的確保
 - ② 中山間地対策を含め、営農継続や農地保全に配慮した交付対象水田の整理や地域実態を踏まえた飼料用米専用品種化への対応
 - ③ 備蓄米の現行水準の堅持と麦・大豆等の豊凶に左右されない安定した供給体制の検討・措置
- (3) 青果対策
 - ① 野菜価格安定制度を堅持し、十分な予算の確保と収入保険との同時利用の恒久化
 - ② 加工・業務用野菜等の国産切り替え等により、需要が見込める品目・用途での産地づくりを行うための支援の拡充。
 - ③ 省力樹形の導入を含む改植・新植や産地の新たな担い手・労働力確保等に対する支援拡充と予算確保

（中央会 農業対策部）

労組を中心に春のクリーン作戦

JAおいらせ労働組合は4月20日、業務終了後にJA施設周辺のクリーン作戦を行った。

地域貢献活動の一環として春と秋の年2回清掃作業を行い、9年前から継続して作業に取り組んでいる。

労組組合員以外に部課長や参事も加わり、本店で約40人、六戸支店で約20人がJAの駐車場や倉庫周辺のペットボトルやビニールなどゴミを回収した。



事務所周辺の清掃を行う職員

JAおいらせ杯少年少女スポーツ大会 入賞チームへ米を贈呈

三沢市東部北部地区少年スポーツ親睦会は4月22日から2日間、第23回JAおいらせ杯少年少女スポーツ大会を開いた。同大会はスポーツを通じた地域の子どもの健全育成を目的に同親睦会が主催したもので、JAは開催当初から協賛を続けている。

三沢市、六戸町、おいらせ町、六ヶ所村から野球の部に6チーム、バレーボールの部に6チームが参加し、楽天イーグルスボールパーク三沢で野球の試合を、三沢市立三沢小学校体育館と三沢市立木崎野小学校体育館でバレーボールの試合を行った。

児童代表として木崎野ライオンズの杉原良門（すぎはらよしと）さんと木崎野小クラブの織笠紗妃（おりかささき）さんが「仲間や支えてくれる家族に感謝し精一杯がんばります」と元気に選手宣誓を行い大会がスタートした。

JAは選手の活躍と健闘を称え、上位入賞チームへ地元産米「まっしぐら」をプレゼントした。結果は以下の通り。



選手宣誓をする児童

野球の部 優勝 三沢ジャイアンツ
準優勝 大曲ベアーズ
第3位 木崎野ライオンズ

バレーボール 優勝 きのしたSSV
シニアの部 準優勝 木崎野小クラブ
第3位 木内々VBC、
岡三沢小VBC

バレーボール 優勝 岡三沢小 Veedol
ジュニアの部 準優勝 岡三沢小ジャンプ
第3位 きのしたキッズ



農林中央金庫 青森支店
JA指導相談班
の が み か い
野上 賀生 さん

輝き

●プロフィール
2020年4月から勤務 中泊町出身 26歳

— 働くきっかけは？ —

大好きな地元で貢献できる仕事を探した結果、弊庫で働くことに決めました。

— 業務内容を教えてください。 —

貸出の事務手続対応、事務指導を担当しています。

— 働いた感想は？ —

様々な系統組織の方々と連携した業務を通じ、JAグループという組織の大きさに驚きました。これからももっともっと活躍の幅を広げ、第一次産業発展のために尽力していきたいです。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

目的を見失わないことです。何のためにこの作業をしているのか、この業務は何に繋がるのかを明確に理解することで、業務の理解深化や、やりがいに繋がっています。

— 特技・趣味は？ —

野球（プレーする方）が好きです。職場とプライベートのチームに所属しており、夏場は練習や試合がほぼ毎週入っているため、真っ黒になっています。そろそろシーズンが始まるので、なまった体を徐々に引き締めて準備していこうと思っています！

— あなたが自慢できることは？ —

ご飯をおいしそうに食べるねとよく言われます。ご飯を作ってくれた人への感謝を忘れず、一粒残らず完食します。

— 将来の夢は？ —

甲子園球場でプレーしてみたいです。近いうちに野球チームをつくりたいと考えているので、そのチームでいつか甲子園の土を踏みたいと思っています。

精米HACCP取得 食の安全確かに



認定書を手にする精米施設所長（右から2人目）と施設スタッフ

JAごしょつがるのグローバルライス（精米施設）が2022年9月、日本精米工業会による「精米HACCP」の認証を取得した。青森県内の施設では4例目となる。

同施設は、認証取得を前提とした設計で18年から着工し、20年に竣工。隣接するライスセンター、集出荷貯蔵施設では、地元生産者が収穫した米を荷受し、貯蔵している。また同施設では、真空パック商品を製造できることから、海外輸出が可能。集荷から販売までの一連の役割を担う。

今回の認証取得により、一層の衛生管理が徹底され、安全な米を提供できることとなる。食の安全を確保する観点から、持続可能な開発目標（SDGs）の「3. すべての人に健康と福祉を」「12. つくる責任つかう責任」へ貢献できる。

JAは、地元のおいしい米を安全な製品として提供するため、製造工程などについて詳細な手順を整備し、衛生管理を徹底していく。



催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
5月13日（土） 試合開始 9時00分～	JA全農あおもり	全農杯2023年全国日本卓球選手権（ホープス・カップ・バンビの部）青森県大会	スポカルイン黒石	広報宣伝総合課	017-729-8637	



アップルパイの仕上げにシロップを塗る澤田さん(左)と新加入した山崎さん

弘前市相馬地区のはつらつとした農家の女性が集う加工品グループ「芽女倶楽部（めめくらぶ）」は、今年で活動22年目を迎える。

この春、新たに山崎奈津美さんが加入した。同倶楽部メンバーの澤田登美子さんと共にアップルパイ作りに励んだ。

澤田さんは「加工品作りが好きで楽しいから続けてきた。一緒に活動してくれる若い人が入ってうれしい」と笑顔で話した。

同倶楽部が作る加工品には、自分たちの畑でとれた果実や野菜を使っており、安全で安心、おいしい商品作りを続けている。

〈取扱店情報〉

J A相馬村直売所「林檎の森」

▽住所＝弘前市大字湯口字一ノ細川307

▽営業＝4～10月の午前8時～午後5時。他ヒロロ地下1階「やおえん」、ビーチにしめやで販売中。

後編
編集集

桜の花もすでに散り、祭り気分の炎もいったん鎮火となりました。5月号が発行される頃は、すでにゴールデンウィークも終わっております！皆さんはゴールデンウィークを楽しめましたか？たぶん私は、田んぼとリンゴ畑の世話で忙しく過ごしているでしょう。

今回は、昔に田んぼの田植えの最中、ふと面白い光景があったので携帯で撮った写真を載せます。岩木山の写真ですが田んぼにはった水面に綺麗に逆さに映っています。風がほとんどないことと田植え前でないことが条件かと。写真を逆さにしても全く不自然でないです。皆さん、ぜひ弘前

のこの場所を見つけてみてくださいね！

それでは皆さん、「SEE YOU ON JUNE!」

(一)



ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。